



税理士法人TACT高井法博会計事務所  
TACTグループ関連十三社代表

会長 税理士 高井 法博

### 『思った通りにはならないが、 やった通りにはなる』 第六十四回経営計画実施作成 セミナーを終えて思うこと』

今年も七月八日から十二日迄の四泊五日で、私が創業以来四十二年間お客様の存続発展のための経営助言サービスの根幹に据えていた『高井法博の経営計画実施作成セミナー』を開催した。折しも七月六日からの豪雨で近畿から九州、また開催地である岐阜においても広範囲に大雨特別警報が出されていた。社員や一部参加予定者から、この西日本豪雨の中での開催について中止してはとの声も入ってきた。正直、私も経営者であり、ホテルや気象台には問い合わせ、テレビ等の気象情報等も参考に慎重に検討をしていた。常識ならば

開催を中止するというのが正常の判断かもしれない。しかし、私は敢えて開催をするとの判断をした。その理由は、今回の参加予定者十社のうち、大きな課題に直面し緊急な対策を必要としている三社だけは、何としても今回このセミナーに参加していただきたかったからである。経営者自らがペンを持ち私の話を聞き電卓を叩き経営計画書を作り、自らの夢ややろうとしていることを、また自社が今直面している大きな難問課題に対し逃げないで向き合い、解決のための具体的な方策を検討する。その方策を実施した場合の定量的(論

理的・科学的)な検証をした上で、その方策をスピードを持って実行に移していかないと企業存続が手遅れになる可能性もある。他の方は欠席されてもこの三社だけはどうしても今この時期に受講し、何としても早急に行動に移し、経営者自身が楽になつてもらいたいと考え、私自身が直接経営者にお逢いし出席を依頼したのであった。このような理由から最悪三社のみの出席となつてもやらねばならないと決意し開催を決定した。そして今回のセミナーは中国の現地法人の総経理(社長)で、既に岐阜入りされている方や、静岡・北九州から一年以上も前に参加申込をして下さっているお客様もいた。結果、定員十五名のうち北九州のお客様のみが交通遮断で欠席となり、最終的に十四名で開催した。

一、『思った通りにはならないが、やった通りにはなる』  
私は三十歳で大恩ある会社に御許しをいただき妻と共に会計事務所を開業させていただいた。シーザーがルビコン川を渡つたように、私は戻れない決断をした。あとはひたすら駆け抜けて戦うだけであった。無謀にもたった一人、いや女房を入れて二人、小舟で大海に漕ぎ出した。生きるのにやっとの小さな事業は戦う度に勝つことが要求された。その後入社してくれた武藤と二人三脚で新たな地平を切り拓こうと私が戦略を立て、二人で戦術を練り行動に移した。私は会社に課題(目標)を与え、自分が先頭に立つことで夢を実現してきた。ここで戦うぞと方向を指し示すと、真に『垂直登坂』、最短距離を一直線で突っ走った。『長生き』は一切考えずに、『太く短く完全燃焼することだけに的を集めた。』多分私は五十歳までしか生きないだろう。それでも構わない』と真剣に思った。生きていく時間の殆どを仕事に注ぎ『毎日戦い』であった。私は経営計画の達成のために年間計画、月間計画と日々の計画を立てると共に、夜十二時前後に帰り遅い夕食を撰んだ後は猛烈な睡魔と戦った。ここで眠つたら只の人になつてしまふ。私は只の人で終わらたくはない。寝ないで日々切り抜いた新聞や雑誌の記事、買い集めておいた本を読み、テープを聞き要点を

ノートにまとめた。同業者が日本中如何に多かろうと、頭が私より優れていようと、私ほど脳味噌がちぎれる位考え勉強し、ドジでも誠実に、これだけ一途に努力し行動する男はいないと思うくらい一生懸命事業に取り組んだ。

私は種々のリスクの塊の中を駆け抜けて勝ちを取りに行った。リスクはどこにでもあった。ただ本気で一途に真剣になつて『誠実に正しい考え方、やり方』で挑戦するとき、リスクは減少した。意欲とリスクは反比例の関係である事を知った。あらゆる展開を急いだ。ライバルが気付いて追いかけてくる前に打てるだけの手を打ちたかった。私は生きている(起きていない)時間の殆どを会社に注いだ。毎日が『戦い』であった。さらに、私は寝る前に翌日にやる事を予め貯めてあるA四のミスコピー用紙や広告の裏などのメモ用紙に列挙した。翌朝日付を書き、横に『一期一会』『二日一生』と書く。予定表に入れてあることを転記すると共に、誰に電話をする。社員の誰に何を指示する。確認する。報告をする。受ける。翌日やらねばなら

らないこと。やりたいことを兎に角列挙する。その後、携帯電話でトイレ・風呂・食事中、会社に入るまでの車中にて、昼は社内にいる社員と昼食を一緒にとり、打合せや指示をする。そして、そのメモのやるべきことを斜線で消して行く。こんな感じで日々を必死に過ごしている。

二、今回のセミナーを実施したもう一つの理由  
私は経営者としての責任と使命感から、仕事と全力で格闘してきた。戦略と戦術を練り、それを経営計画書に落とし込む。それをもとに活動しお客様を拡大する一番のセールスマンであり、巡回監査を行ない、決算を組み、税務申告書を作った。さらに、社員の採用や教育も行ない、要請されるあらゆる講演も時間のある限り全てを受け、徹夜で準備しこなしてきた。その間にいくつもの会社団体を作り、全ての代表も行なってきた。

今年の九月には七十二歳になろうとしている。『気力だけはいささかも衰えていない』が、年齢による体力の衰えは如何ともし難く、経営計画ゼミの講演も何講かをインストラクター経験のある幹部社員に委ねている。私にとって創業以来のライフワークとして一杯勉強し、自らも十三の会社団体を作り、七百社のお客様に関与させていただく中で創り上げたこのセミナーは、まさに『空理空論でなく実学』である。話を素直に聞き『意識改革』を行つた経営者が、経営計画書を作り上げ行動に移し、みるみる経営を改善していける姿を見ることは何よりも嬉しく、仕事冥利に尽きる瞬間である。

主治医から仕事を控えるように言われても、私の生き甲斐であり、でき得る限り続けたいと思つている。しかしながら、回を追う毎に体力の低下を感じ、正直、次回やれるかどうかは、自分自身でも解らない状況である。  
今回敢えて開催したもう一つに私の勝手な理由があったことも、私の情熱と熱意の表れということ御許しをいただきたいと思う。

5月17日発行の一期一会111号に下記のような誤りがございましたので、訂正させていただきますと共に深くお詫び申し上げます。

P4 「公益財団法人高井法博奨学会 第2期奨学生2名が決定」における寄附者一覧	
誤) (株) 壱番屋 (CoCo壱番屋) 創業者 宗次 徳二様	寄附金額 500,000円
↓	
正) (株) 壱番屋 (CoCo壱番屋) 創業者 宗次 徳二様	寄附金額 600,000円
誤) 合計寄附金額	69,710,000円
↓	
正) 合計寄附金額	69,810,000円